



平戸島の沖合に位置する世界文化遺産の構成資産「中江ノ島」は、潜伏キリシタンが殉教地として信仰し、聖水を汲む儀式を行っていた聖地

長崎と天草地方の「世界遺産巡礼の道」

エリア I 密かな聖地を巡る道 (平戸市) (巡礼路1~3)

宣教師ザビエルによって県内に初めてキリスト教が伝えられた平戸には、潜伏キリシタンが密かに崇敬した聖地が残っています。それらは山や丘、海岸の岩や島など自然の中にあり、今もかくれキリシタンのオラシヨ(祈り)に受け継がれています。

本エリアには、3つの巡礼路があり、このうち「巡礼路1」は、平戸市街から生月(禁教前にキリスト教に一斉改宗した領主松浦氏の家臣領地)を巡るコースで、中江ノ島を眺望できます。

長崎と天草地方の「世界遺産巡礼の道」とは

世界文化遺産をはじめとするキリスト教関連遺産をたどる道として、35の巡礼路をテーマごとに5つのエリアに分けています(総延長約465km)。各エリアの代表的な巡礼路を5シリーズで紹介します。



平戸市生月町博物館・島の館では、かくれキリシタンの歴史を紹介しています。



九州自然歩道を歩き、川内峠園地に到着。見渡す限り草原が広がります。

巡礼路1

貿易港平戸から生月の密かな聖地を訪ね歩く

[区間:21km]



問合せ 県の世界遺産課 ☎095-894-3171

潜伏 世界遺産巡礼の道 検索

